

取扱いの趣旨

T S A bは、免疫グロブリンであり変動は緩徐であるため、連月の算定は原則として認められない。

支払基金が公表している取扱いの全文

【検査】

《令和6年7月31日》

257 T S A bの連月の算定について

○ 取扱い

D014「40」T S A bの連月の算定は、原則として認められない。

○ 取扱いを作成した根拠等

甲状腺刺激抗体（T S A b）は、T S H受容体に結合する抗体でT S Hの結合を阻害するが、一方で抗体自体が受容体刺激作用（T S H様作用）を有しているため、甲状腺ホルモン（T 4，T 3）の分泌を亢進させ、甲状腺機能亢進状態を生じさせる。

甲状腺機能の状態は、血中の甲状腺ホルモン等（F T 3，F T 4，T S H）を測定することにより、迅速な把握が可能であり、薬物治療開始時等の不安定期には連月、場合によっては同一月内に複数回の検査が必要となる。

一方、T S A bは免疫グロブリンであることより、その変動は緩徐であり、連月で測定することの有用性は低い。

以上のことから、D014「40」T S A bの連月の算定は、原則として認められないと判断した。

グラフの見方

1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

当該事例の取扱いの対象となる診療行為（医薬品、特定器材）を算定している目視対象レセプト
1万件当たり、取扱いの趣旨に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

取扱いの趣旨に該当するレセプトのうち、
査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

審査結果の概要

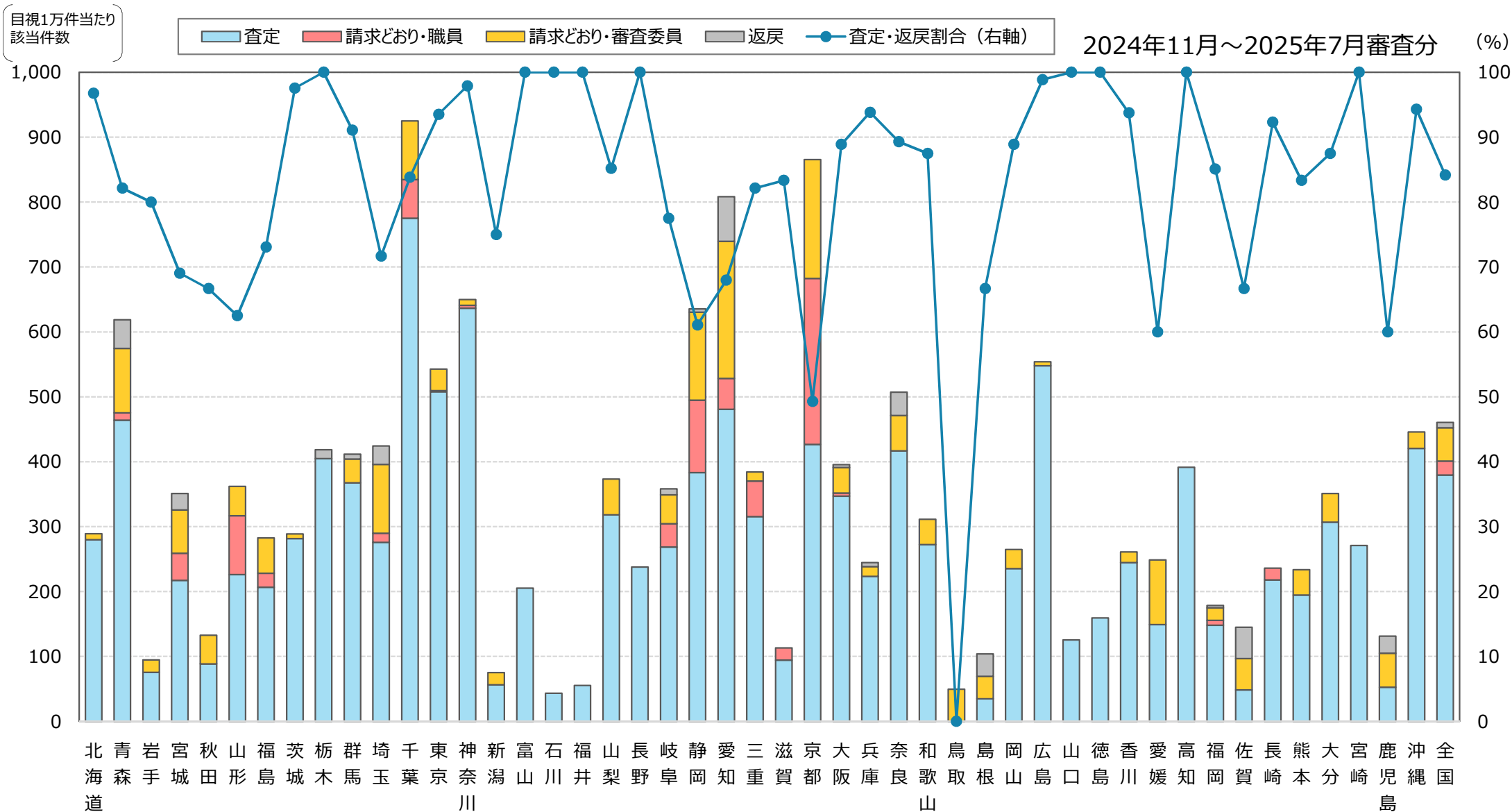
➤ 全国の査定・返戻割合 84.17%

➤ 検証対象都道府県 21

検証観点	都道府県※	備考
査定・返戻割合が低い	鳥取、京都、愛媛、静岡、山形、秋田、島根、愛知、宮城、埼玉、福島、岐阜、青森、三重、熊本、千葉	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	京都、静岡、山形、千葉、三重、愛知、宮城、岐阜、福島、埼玉、青森、大阪	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	愛知、京都、静岡、埼玉、愛媛、青森、千葉、宮城、山梨、福島、奈良、鳥取、山形、岐阜、秋田、大分	//

※検証対象都道府県が16を超えたため、16都道府県を限度に表記している

該当件数（全国）	【条件】	3,139件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	2,642件
検証を必要とする審査	請求どおり	497件



【該当件数】 取扱いの趣旨に該当したレセプト件数